

JA バンク新潟における地域密着型金融の取組状況（平成 25 年度）

JA バンク新潟（県下 JA と新潟県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、「JA バンク新潟中期戦略（平成 25 年度～平成 27 年度）」に基づき、地域密着型金融の推進に取組んでおります。

平成 25 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、お知らせいたします。

《目 次》

1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援 (JA バンク新潟の農業メインバンク機能強化への取組み)	· · · · P 2
2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援	· · · · P 4
3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した 資金供給手法の提供	· · · · P 6
4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等 地域育成への貢献	· · · · P 7

1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援 (JAバンク新潟の農業メインバンク機能強化への取組み)

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成26年3月末時点のJAバンク新潟の農業関係資金残高^(注1)は90,827百万円(うち農業経営向け貸付金44,694百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は25,176百万円を取扱っています。

(注1) 農業関係の貸出金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関係する事業に必要な資金等が該当します。

(注2) JAバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、JA転貸分を含みます。

【営農類型別農業資金残高】 (単位:百万円)

	26年3月末現在
農業	44,694
穀作	21,821
野菜・園芸	3,568
果樹・樹園農業	1,175
工芸作物	331
養豚・肉牛・酪農	1,414
養鶏・鶏卵	227
養蚕	-
その他農業	16,155
農業関連団体等	46,133
合 計	90,827

(注)

1 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関係する事業に必要な資金等が該当します。

2 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

3 「農業関連団体等」には、JAや全農(経済連)とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位:百万円)

種 類	26年3月末現在
プロパー資金	72,982
農業制度資金	17,845
農業近代化資金	5,677
その他制度資金	12,167
合 計	90,827

(注)

- 1 プロパー資金とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
- 2 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJAバンク新潟が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫等が融資するものがあり、ここでは①③の転貸資金と②を対象としています。
- 3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

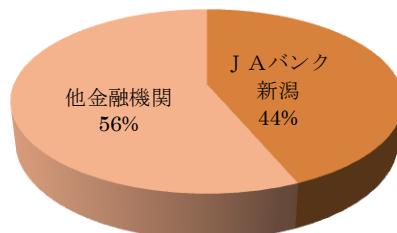
種類	26年3月末現在
日本政策金融公庫資金	25,171
その他	4
合計	25,176

(注) JAバンク新潟では、主にはJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、日本政策金融公庫資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【新潟県の日本政策金融公庫受託貸付のシェア】

出所：(株)日本政策金融公庫
農林水産事業「業務統計年報」 (平成26年3月末)



(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備

JAバンク新潟では、地域の農業者との関係強化を目的とした体制整備に取り組んでいます。

県内25JAでは、担い手への訪問・資金提案活動を中心的に担う「農業融資相談員」をJA本支店に106名設置し、そのうち50名が「担い手金融リーダー」として農業融資の実務リーダーとしての業務を担っています。

信連では、農業部を中心に「県域農業金融センター機能」を構築し、JAの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。JAの体制整備や人材育成を支援するとともに、JAと連携した協調融資などにも取り組んでいます。

また、農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、JAバンク独自の農業融資資格制度である「JAバンク農業金融プランナー」の資格取得を進めており、平成26年3月末現在では県内225名が取得しています。

(3) JA内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

【具体的取組事例】

- 「第1回JA担い手支援推進集会」の開催（平成25年11月実施）

担い手への対応や出向く体制を強化し、JAにおける信用部門と営農・経済部門の連携の有効性・必要性の確認や情報交換を目的にJA新潟中央会、JA全農にいがた、JA共済連新潟と共に実施しました。

2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

J Aバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 新規就農者の支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、就農支援資金などを取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】 (単位：件、百万円)

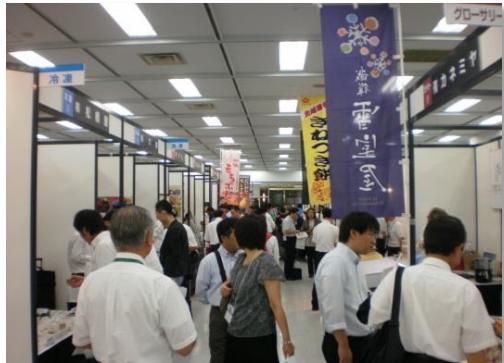
	平成25年度 実行件数	平成25年度 実行金額	平成26年 3月末残高
就農支援資金	8	33	112
新規参入者経営安定資金	1	1	10
合 計	9	34	122

(2) 6次産業化に向けた農商工連携の推進

J Aバンク新潟では、JA新潟中央会、JA全農にいがたなどと連携し、生産者・JAと加工流通業者との商談会の開催など、農業6次産業化に向けた農商工連携に取り組んでいます。

【商談会等開催状況】

商談会名	開催日	主催者	参加団体数	来場者数	内容
うまさぎっしり新潟 食の大商談会 2013	H25.9.20	NICO、 新潟県、 県内金融機関ほか	127 団体	1,186 名	・2JAと農業法人3社が 出展 ・78件の商談が成立 (H25.10.10時点)
情報誌 Sole!にいがた	H22.7創刊 年4回、 21,000部発行	新潟県信連			・農商工連携を促進する一環として、フリーペーパー形式の情報誌を発行



盛況だった商談会の様子



県内のJA窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無償配布しています。

(3) 生産者と消費者をつなげる場の設置

J Aバンク新潟は、新潟県生活協同組合連合会、新潟県森林組合連合会、新潟県漁業協同組合連合会、新潟漁業協同組合、新潟県酪農業協同組合連合会、JA全農にいがた、JA共済連新潟、JA新潟中央会との共催により、「第15回協同組合まつり」（平成25年10月27日、新潟市産業振興センター）を開催し、8,341名の方にご来場いただきました。

会場では県内農畜産物等の紹介・直売や県内農産物を材料とした食事の提供、ステージイベント等を実施し、好評を博しました。

(4) JAバンク新潟講演会・セミナー等の開催

J Aバンク新潟では、農業者の方を対象とした講演会や、融資先のお取引先様や系統団体を招いた情報交換会等を開催し、異業種間の情報交流を促進しています。

【平成25年度 講演会・セミナー開催実績】

講演会名	参加対象者	参加 団体数	主催者	内容
第7回 農業法人経営者セミナー (H26.2.17)	県下農業法人 ・JA等	91団体 14JA	新潟県信連	第1部「農業法人の継承に向けた人材育成について」 第2部「次代を担う後継者の確保と育成について」
第26回 信連融和会定例総会 講演会 (H25.7.19)	信連融資 取引先	66団体	新潟県信連	「これからの日本経済の行方」
平成25年度 経済・金融セミナー (H25.11.12)	信連融資 取引先	52団体	新潟県信連	「日本経済展望：アベノミクスは「第2幕」～」

(5) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応にあたり、特別融資制度推進会議を通じて関係機関と協議するなど、農業者の経営再建に向けて取組んでいます。

【平成 25 年度の農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

期初経営改善支援取組先		Aのうち 再生計画を 策定した 先数 a	Aのうち 期末に債務 者区分がラ ンクアップ した先数 b	Aのうち 期末に債務 者区分が変 化しなかつ た先数 c	事業計画 策定率 = a / A	ランク アップ率 = b / A
正常先①	45	3		37	6.7%	
要 注 意 先	うちその他要注意先②	109	37	21	76	33.9%
	うち要管理先③	19	5	2	13	26.3%
破綻懸念先④	40	18	7	26	45.0%	17.5%
実質破綻先⑤	68	17	8	47	25.0%	11.8%
破綻先⑥	4	2	1	1	50.0%	25.0%
小計 (②～⑥の計)	240	79	39	163	32.9%	16.3%
合 計	285	82	39	200	28.8%	13.7%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成 25 年 3 月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供

J Aバンク新潟では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 負債整理資金による軽減支援

J Aバンク新潟では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成 25 年度負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	実行件数	実行金額	平成 26 年 3 月末残高
農家経済再建資金（負債整理資金）	14	58	2,951
畜産特別資金	0	0	48
土地改良負担対策資金	9	85	1,783
農業経営負担軽減支援資金	1	2	71
その他	0	0	128
合 計	24	145	4,981

(注)

・農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

・畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

(2) アグリビジネス投資育成株式会社による出資等、官民ファンドの活用

J A バンク新潟では、お客様の資金調達手段の一つとして、J A バンクが創設した農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」による出資を提案しています。

平成 25 年度には、県内農業法人の資本調達ニーズに対応するため、「アグリシードファンド」で 7 百万円の出資、「担い手経営体応援ファンド」で 30 百万円の出資を実施し、これまでで計 3 件の出資を実施しています。

(3) 団信付農機具ローンの創設

高齢化社会の進展に伴う定年就農者など多様な担い手への円滑な資金対応に向けて、团信付農機具ローンの創設を行いました。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J A バンク新潟では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 災害被災者への支援

J A バンク新潟では、各種自然災害の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

平成 25 年の豪雪により被害を受けられた方への対応として「平成 25 年豪雪災害等復旧支援資金」を創設、同年 4 月の暴風被害および同年 7 月の豪雨被害についても本資金でいち早く対応しました。

(単位：件、百万円)

取組事例	J A名	内 容	件数	貸付実行金額
平成 25 年 豪雪災害等復旧支援資金	J A バンク 新潟	豪雪災害等による農業被害への対応として、J A グループの利子補給による低利資金を創設しました。	13	14

(2) J A バンク食農教育応援事業の展開

J A バンク新潟では、将来を担う子供たちの農業や自然環境、金融経済に対する理解を促進することを目的とした「J A バンク食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A 等による子供を対象とした食農教育活動等への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちのくらし」(小学校高学年向け、特別支援学校生向け)などの無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校 511 校へ約 24,100 セット、特別支援学校生向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校 19 校へ約 300 セットを贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下 J A では、下表のような食農教育などの様々な実践活動に取組んでいます。

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

JA名	活動名	活動内容
JA新潟市	農業体験作文コンクール	管内小・中学生、特別支援学校生に対し農業体験学習「学校教育田」の実体験に基づいた作文コンクールを実施。
	学校教育田	管内小学生等を中心とした教育田を実施。
JAかみはやし	親子で新米のおにぎりを作ろう	地元の幼児・小学生・中学生の親子によるおにぎりづくりのイベントを開催。
JA新潟みらい	食農食育出前授業	JA管内の小学校を対象に、地場産食材を使った調理実習や食農教育を実施。
	食農食育に関する図書、食農食育カレンダーの配付	管内小学校へ毎月「ちゃぐりん」を贈呈。 管内小学校を対象に図画コンクールを実施し、入選作品をカレンダーにして管内小学校へ配付。
	あぐりスクール	JA管内の小学生を対象に、収穫体験及び地場産農畜産物の生産者からの話を聞き、地場産の昼食を食べることにより地産地消の理解を深めてもらう。
	親子農業体験（わくわくみらい俱楽部）	管内の親子を対象に、年4回特産品の収穫を行い、収穫物の調理やそば打ち体験を実施。
	親子米作り体験	親子で米作りに携わってもらい、お米の収穫の大変さの理解と地場産のおいしさを味わってもらう。
	親子米粉調理実習	親子を対象とした米粉調理実習を実施。
JA越後中央	農業体験スクール	JA管内の保育園・小中学校を対象に、学校教育田の田植え、稲刈りの指導を実施。
	農業施設見学による農業体験学習	JA農業施設見学およびトマト収穫体験を実施。
JAにいがた南蒲	JA管内中学校出前授業および合格祈願米の贈呈	JA管内中学校にて出前授業を実施。中学3年生に対しては「難関（南蒲）突破米」を贈呈。
JA越後さんとう	サマースクール	JA管内の小学生4~6年生を対象に、農作物収穫体験と地場産農作物と加工品を使って昼食作りを実施。
JA魚沼みなみ	グリーンスクール	JA管内の小学生を対象に、環境・食糧・農業への理解を深めることを目的に、農作業体験や調理実習などを実施。
	夏休みこども料理教室	JA管内の小学3~4年生を対象に地元の食材を使った料理教室を開催。
	だんぼの部屋料理教室	NPO法人である家庭支援組織「だんぼの部屋」と共同で食農教育の一環として料理教室を実施。
JA十日町	どろんこキッズスクール	地元小学生4~6年生を対象に年間9回シリーズで農業・調理体験スクールを実施。
	料理教室	親子を対象に地元農畜産物や米粉を使った料理教室を実施。
JA津南町	津南町農業体験学習推進協議会（どろんこ学習）	JA管内の小学校が行っている食農教育活動（花卉・野菜栽培学習、学校田）に対してJA津南町が指導、活動費助成を実施。

(3) その他の地域貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い貢献活動を展開しています。

○ 「エコ定期貯金」の受入を通じた、環境保全団体への寄付金の贈呈

地域の自然環境保護を支援する取組みとして、受入残高の 0.05%相当額を寄付し、郷土の自然環境保護に貢献する「エコ定期貯金」の取扱いをしています。

多くのお客様から趣旨にご賛同いただいた結果、平成 25 年度は 1,994,657 円を公益社団法人「にいがた緑の百年物語緑化推進委員会」に寄付することができました。



にいがた緑の百年物語緑化推進委員会へ寄付金贈呈

また、信連では以下のような取組みも行っております。

○ 公益信託「J Aバンク新潟県信連創立 50 周年記念・ホームヘルパー支援基金」 新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者とし、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対し助成しています。

○ 「キッズスポーツクリニック」への特別協賛

「スポーツを通じた青少年の健全育成」の趣旨に賛同し、アルビレックス新潟（サッカー）及び新潟アルビレックス BB（バスケットボール）が開催する「キッズスポーツクリニック」への特別協賛を行っています。

○ 「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛

公益財団法人新潟県文化振興財団が主催する「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛を行うとともに、文化交流の振興を支援する目的から、県内在住の留学生を公演に招待し日本の伝統文化に触れてもらいました。また、東日本大震災の影響で県外から新潟県に避難している方々も招待しました。

○ エコキヤップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集め世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

○ 環境への取組み

J A新潟ビル内のLED照明への切替えによる省エネ化、電気自動車等エコカーの業務車両への導入、クールビズの実施など、節電への対応や地球温暖化防止策に積極的に取組んでいます。

○ 役職員によるボランティア活動への参加

新潟市が主催する地域清掃活動に毎年参加しています。また、新潟県赤十字血液センターのご協力により、団体献血を年2回実施しています。

○ 地域行事への参加

「新潟まつり大民謡流し」等の地域行事に地域の一員として積極的に参加し、地域の皆様との交流を大切にしています。

以上